

第4回 創薬力の向上により国民に最新の医薬品を迅速に届けるための構想会議

日 時：令和6年4月17日（水）11：00－12：00

場 所：官邸4階 大会議室

議 事：1．開会
2．論点整理（案）について
3．意見交換
4．閉会

配布資料：資料 論点整理（案）
参考資料 これまでの会議における構成員の意見

出席者：村井 英樹	内閣官房副長官
鴨下 一郎	内閣官房参与
岩崎 真人	前武田薬品工業株式会社代表取締役
岩崎 甫	山梨大学副学長・融合研究臨床応用推進センター長
上原 明	大正製薬株式会社取締役会長
高橋 政代	株式会社ビジョンケア代表取締役社長
永井 良三	自治医科大学学長
藤原 康弘	独立行政法人医薬品医療機器総合機構理事長
牧 兼充	早稲田大学大学院経営管理研究科准教授
間野 博行	国立研究開発法人国立がん研究センター研究所長
南 砂	読売新聞東京本社常務取締役調査研究担当
山崎 史郎	内閣官房全世代型社会保障構築本部総括事務局長

○岩崎（真）構成員

- 日本がグローバルエコシステムの一員として参画し、グローバルエコシステム全体から革新的な新薬を生み出して、世界中の患者に届けるという考え方を強調すべきではないか。
- 近年は医薬品と医療行為の境界が曖昧になってきている。医薬品市場にとどまらず、医療市場全体として活性化をしていくという考え方が必要ではないか。市場の魅力度を考える上では、公的医療保険外の部分に着目すべきである。
- 海外のスタートアップを呼び込むうえでは、発信が重要である。医療産業を成長産業と捉え、産業政策として教育も含め力強く推進していくことを発信すべきである。

○岩崎（甫）構成員

- 我が国の非常に公共性の高い医療環境の中で、いかにイノベーションを創出する環境を整えるか戦略的な視点で考えていくべきではないか。あわせて、医療ニーズは存在するがビジネスとして成立しないような部分の対応についても、解決策を講じていくべきである。
- 創薬力向上に国として取り組むうえで、省庁間で建設的な議論をすすめていく必要がある。省庁間の壁というものを打破し、我が国として総力をあげ、一体となった活動をしていく方向性を明確に打ち出すべきである。

○上原構成員

- 医療・社会保障をいかに効率的・効果的に運用していくかを考える上では、生活者が自分自身の健康について深く知ることが重要ではないか。個別のニーズに対応した情報提供が必要であり、AI等の活用により取り組んでいくべきではないか。

○高橋構成員

- 創薬力向上の観点からも、先端的な医療や臨床試験を実施するという役割に沿った大学病院の在り方を追求するべきではないか。
- サイエンスサイクルの循環のため、基礎の研究者には研究資金はどこから出ているのか、自分たちの知財が産業となって利益を創出し、また研究資金となっていることを理解して頂くべきであり、アカデミアの知財戦略が非常に重要である。
- 成長産業としての医療と患者中心の医療が両立することを、広く医療従事者や国民に伝えていくべきではないか。
- AIやソフトといった新しい形の医療の開発の進展を踏まえ、創薬にとどまらず、医療全体を成長産業としていくことを考えていくべきではないか。

○永井構成員

- 創薬力向上のため、大学病院の在り方や、企業の我が国のアカデミアへの投資喚起・民間もコミットした研究拠点の整備といった観点から、研究現場を改革していくことが必要ではないか。
- 我が国として創薬産業育成を1つの柱として考え、取り組んでいくべきではないか。

○藤原構成員

- 創薬力向上の目的として、国民の健康安全保障を打ち出していくべきではないか。
- 長期的な視点からは基礎研究の振興が重要であり、中長期のスパンで投資を続けなければ、将来の日本の創薬力は失われてしまうのではないか。
- 国民の臨床試験の意義に対するリテラシー向上が必要であり、各省庁・メディアを含めてその醸成に取り組むべきではないか。
- 我が国のiPSの研究基盤を活用し、実験動物を用いない未来型の毒性試験の在り方を考えていく体制整備をすべきではないか。
- 新規モダリティ医薬品として放射性治療医薬品の研究開発が米国等で進められている。我が国における取り組みを強化すべきではないか。
- 製造領域における人材育成について、海外から人材を呼び込むと共に、我が国として継続的な育成に取り組むべきではないか。

○牧構成員

- 戦略策定と実行を考える上では、目標へ向けた明確なKPI設定をすべきであり、製薬や医療の専門家のみならず、イノベーションの専門家の関与が重要である。実行の後に評価することが重要であり、司令塔がその評価機能を担うべきではないか。
- 創薬は大多数が失敗に終わるものであり、政策として失敗を積極的に評価する仕組みが必要ではないか。失敗へのリワードを経済のメカニズムの中で循環させていくことが重要ではないか。
- 我が国の創薬エコシステムの中核となる「スター・サイエンティスト」の育成や社会実装への関与を増やしていくためには、ファンディングの手法を見直していく必要がある。研究段階では長期的な評価を行い、開発段階では迅速なNo Go判断をしていくということを、仕組みとして組んでいくことが重要ではないか。
- 持続的な科学技術政策を推進していくうえでは、研究者や国民に対するナラティブが重要ではないか。
- 医療とデータサイエンス、創薬と量子コンピュータなど学際領域がますます重要になる。2つの領域の博士号を持つような新領域の専門人材育成に取り組むべきではないか。

○間野構成員

- mRNAワクチン等は膨大なシミュレーションの下に創製されたものである。データサイエンスの重要性を改めて認識すべきではないか。
- 新しい臨床試験や創薬の在り方といった医学・薬学の変化に対して、アカデミアの教育体制が対応できていないのではないか。学部学生の段階から、これらに対する教育を取り入れるべきではないか。

○南構成員

- 我が国の創薬力低下において、創薬産業に対する国策という視点の欠如が根底にあるということを国民に認識いただく必要があるのではないか。
- 患者中心の医療と成長産業としての医療が両立するという認識を国民が持たない限りは、本質的な医療改革は困難ではないか。
- 4年制薬学部や、医学教育における臨床・基礎のバランス等、医学・薬学教育のあり方について改めて検討すべきではないか。

○山崎構成員

- 実用化を推進するアクセラレーター人材について、どのようにすれば魅力ある形で確保することができるのか検討すべきではないか。
- アカデミアの研究が実用化研究に直結するよう、再現性の観点から精度管理された薬効試験等が必要ではないか。
- データサイエンス人材が豊富な他国から日本に呼び寄せるとともに、我が国での育成に取り組むべきではないか。

以上